

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>利用希望者の特性を考慮した入園のしおりやホームページを用いて園情報を伝達している</p> <p>利用希望者が本園の情報を入手できる媒体がいくつかあって、園の工夫がみられる。入園のしおりやホームページなどの情報提供媒体には、できるだけ園のイメージに近いイラストを入れたり、文字の色を必要に応じて変えたりなど視覚優位の人や文章を読むことが不得意な人のために配慮している。同ホームページには園の基本情報と共に園が大切にしている保育理念や方針、方法がわかりやすく表示されている。子ども達の活動写真も掲載されているほか、職員のブログが定期的に記入されるなどアクセスした利用希望者が具体的に本園の保育を知ることができる。</p> <p>関係各機関からの要望に応じて、年に一度は情報を見直し、最新の情報提供に努めている</p> <p>「糸島市保育所案内」という冊子がある。「案内」には園の基本情報以外に「保育所のPR」欄があり、本園が大切にしている「子どものために」をモットーに、科学的根拠に基づいた子どもを第一に考える保育が明記されている。また、市の子育て支援情報誌に園の情報を提供している。毎年変化があった部分を中心に情報の更新に努めている。保健師療育関係小学校教諭と保育園で構成する発達支援部会と乳幼児部会が年3回程あり、本園情報提供の機会となっている。学校や郵便局、公民館などに園行事のポスター掲載を依頼し、園に来ることを促している。</p> <p>利用希望者の見学依頼には柔軟性もって対応し、個別の状況に合わせる配慮も園にはある</p> <p>園見学に関する電話やメールでの問い合わせがあり、可能な限り見学を受け入れている。土曜日も対応している。0、1歳児の保護者見学が多く、生活や離乳食、ミルクの種類まで聞き取りを行い、一時的に預かる場合がある。就労の有無に関わらず、子どもが遊びに行きたいから行ってもいいかとの希望も受け入れている。来園する保護者の精神疾患や障害に沿って説明する配慮がある。また、緊急性が高い状況の場合は一時保育の受け入れも可としている。親が外国人の場合は、理事長や園長が対応し、英語で園の説明をするなど見学者の個別の状況に応じている。</p>		
サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園に係る重要事項説明に際しては、承諾書の記名捺印等により丁寧な確認を行っている

4月入園は10人ほど。兄弟児がすでに通園している保護者は説明会に来ないが、初めての保護者は園の説明会にしっかりと足を運ぶ。途中入園の場合は、「入園のしおり」を手渡して説明する。バスの承諾書他の承諾項目があって、承諾書に記名捺印をもらい、個人ファイルに保管する。最低でも1～2時間の時間を要して説明をしている。実際に保育室を見学して、目の前で子どもたちがどんな姿で遊んでいるか見てもらう。また、クラス担任が持ち物などを説明し、開始に備えてもらう。0歳児の離乳食やミルクの種類、哺乳瓶や乳首のことも怠らずに確かめる。

子どもの不安の解消や環境の変化に対する敏感さに配慮した慣らし保育への取組みがある

保育の開始に際しては、子どもの不安が強くなる可能性があるため園は判断し、子どもが集団に入れるよう職員が誘導する。子どもが自ら他の子どもと遊べるようになったら職員はその子から離れて、その子の様子を見守る姿勢をとる。緊急保育以外は慣らし保育を行っているが、一対一対応を必要とする子どもが入園した時には、職員が一人で保育にあたる丁寧さもあり、一か月半もそうしたケアが続いたこともあった。発達障がい児や肢体不自由児は環境の変化に対する敏感さがある。このことを園は受容し、目標を設定して慣らし保育を行う旨保護者に伝えている。

発達障がいの卒園児には義務教育終了まで継続観察と保護者相談による支援を続けている

毎年6月の保幼小連絡会では1年生になった卒園児の様子を観察している。また、夏休みの間に小学校から教諭が見学に来ることがある。3月の保幼小連絡会では、新年度の小学1年生の体制づくりのために、園と小学校の職員とで情報を交換しており、卒園後の子どもの不安軽減につながると園は考えている。発達障がいの子ども達のために自閉症スペクトラム支援士(園長)と学校心理士が小学校に行き、子どもの変化の様子を確認して、保護者との個人面談を催す等細かい対応を園はとっている。運動会などの行事案内を卒園児家庭に郵送して参加を促している。

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

12/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもに対する適切な支援のために情報を把握し、保育園生活に活かされている。

入園の際には家庭状況調査票で家庭の状況や勤務先の把握、健康診断アンケートでは子どもの平熱、既往歴(今までのかかった病気)、アレルギーや常備薬の有無、予防接種など細部において確認が行われている。また個人面談や保育参観を年に2回以上行われ、保護者の要望やニーズの把握に努めている。家庭環境の変化については家庭状況調査票に上書きされ、それぞれの個人ファイルとして整理し、必要に応じて確認などが行われている。

子どもの様子や発達を理解することから望ましい保育計画に繋がっている。

保育課程を踏まえて年間保育計画から月間保育計画と具体的に・系列的に作成されている、また5つの領域(健康、人間関係、言葉、環境、表現)に加えて保護者支援、健康や安全などについても具体的に計画され、2つの視点(保育者・子ども)から振り返りと評価が毎月、行われている。特に環境的な領域においてもゾーン評価記録(ブロック、絵本、ままごと、製作の項目)として当月と翌月の振り返りと評価が定期的に行われ、新たに今後の環境構成としての取り組みが定期的かつ計画的に子どもの様子を把握することから展開されている。

家庭と保育園での育ちの連続性を踏まえた情報の把握と共有が行なわれている。

家庭からの情報は0～2歳児までは連絡ノートが用いられ、特に0歳は家庭から様子、また保育園での様子を伝えることが出来るように作られている。1～2歳児は保育園での様子のみで作られ個人ごとにファイルされている。保護者の希望に応じて別の連絡帳を利用している。また0才児では保育者同士が子どもの様子や状態を把握・記入しやすいように壁に見えるように個人ごとに掛ける工夫や3歳以上のクラスでは3つのクラスの保育日誌(様子と特記事項を記入)は同じ箇所に置かれ、記入と保育者同士の共有がスムーズに行なわれている。

サブカテゴリー5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
---	--------------------	-------------------	-----

評価項目1  
子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

評価項目2  
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報方針に基づき適切な手順で行なわれ、様々な情報の発信に取り組んでいる。  
個人情報保護基本方針及び規程を定め、周知は図りながら保護者に対しても承諾書もらい適切に対応を行なっている。嘱託医や各種他施設との連携だけではなく、積極的な情報の発信(ネット回線を通じて子どもの様子の映像を見ることができるシステム:対象は2,3歳児以上児クラス)に取り組んでいることは先進的な取り組みであり、保護者との子どもの育ちの共有意識が感じられる一方で、今後生じる可能性がある様々なリスクに対する子どもたちへの配慮的な環境の構成と、更なる社会へ向けた情報の発信が期待される。

「子どもを第一に考える」保育を実践することによって「子どもの権利」を保障している  
「入園のしおり」には「子どもの権利条約」をわかりやすく掲載している。園が子どもの権利や意思尊重を大切に考えていることの表れである。園の保育目標や方針、方法の中に「子どもを第一に考える」という理念が具体化されている。選択制の保育の実施はその一つ。園外で遊ぶか園内で過ごすか、園外の場合も園庭で遊ぶか散歩に行くかを子ども自身選択する。個々の発達や偏りに合わせて保育環境を整備する園の取り組みは高く評価できる。一人を好む子には一人で過ごせる場所を用意し、別な保育室で遊ぶなど、子どもの思いを受け入れる態勢が園にはある。

各家庭の価値観や生活習慣の違いに配慮した子どもや保護者支援を園は特に心掛けている  
保護者や子どもの価値観や生活習慣など、在園児及びその家庭の多様性を受け入れる姿勢が園にはある。登園時間を決めて強制するようなことをしない配慮がある。各家庭はそれぞれの価値観を保持しているので、園は出された質問には丁寧に答えるよう努めている。ノートに書いて伝えると解釈が誤る場合があるので、口頭で伝えて、その場で了解してもらうことを職員は心掛けている。職員の判断がつかない場合は、園長や主任に確認を取るため、問題を預かっておくことを保護者に伝えることを怠らない。必要がある場合には園として支援する態勢を整えている。

## サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

11/11

## 評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

園の業務内容は各種マニュアルで明確化されていると同時に、点検も随時実施されている

園には運営規定、保育課程、各種マニュアルがあって、園が提供する保育業務の内容が明確化されている。実施されている事業については、年度当初の職員会議や定例の職員会議、案件発生時のケース会議等を通じて柔軟に点検している。また、職員がわからないことがあれば、諸規程の他、保護者に向けて発信された「通信綴り」を随時確認できる態勢が整っている。マニュアルを新たに作成した場合には、マニュアルの内容、設置場所を職員に周知している。さらに、不明点や疑問点があれば、先輩保育士や園長主任に気軽に相談できる職場関係が構築されている。

業務水準の見直しに際しては、子どもの姿が基準になっており職員間で常に検討している

各業務水準の見直しは、子どもの姿を振り返ることによって実施しており、このことはとても重要な見直し基準である。子どもが生き生きとしているか、子どもが笑顔でいるか、子ども達が楽しそうか、を常に職員は判断し、水準の見直しに反映させている。入園当初は無表情である子どもが様々な機会に表情を取り戻せるような保育の工夫に園は取り組んでいる。子どもの姿が気になると、職員会議などで職員がすぐに発表できる雰囲気がある。様々なテーマに関する会議で担当の職員が提起したことを全員で話し合っ決めて、話の中心は常に子どもの姿である。

「職員ノート」や「るんびにライン」によって職員全体が一定の業務水準を確保している

職員全体に情報が行き渡る仕組みとして「職員ノート」や「るんびにライン」がある。特に「るんびにライン」では、職員ノートで見落としたり読まなかったりすることを補う機能がある。保護者から連絡があった場合は、ラインによって連絡内容が全職員に配信され、即時に対応できる態勢が整えられている。園運営に資する研修や実習には園長以下職員全員が参加し、定例の職員会議でフィードバックして共有し合っている。さらに、必要に応じて、園長や主任が保護者に話をする際の助言を行うことで、職員たちは安心して保護者に対応できるようになっている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		37 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(00000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達の把握が徹底され、人的・物的な支援的環境に繋げている。</p> <p>何に興味・関心があるのか？どんな遊びを選んでいるのか？誰と関わっているのか？どんな遊具は発達を促すのか？そんな問いかけを行ないながら保育者は一人ひとりの姿から育ちの部分、つまり発達を理解することを重要な部分と考えている。活動は与えられるものではなく、子ども自身が選んでいくものであるという思いは日々の人的環境の中に自然と溶け込んでいて、1歳児が自ら帽子をかぶり準備をしている姿を見て、「お外にいこうか？」と応答的な関わりとして活動の幅を広げ尊重し子ども一人ひとりの自発性と主体性を認めた支援の対応を心がけている。</p> <p>一人ひとりの個性を尊重し、それぞれが落ち着いて過ごせる環境が工夫されている。</p> <p>保育目標の中に「個性を受容され、自分らしく生きる子ども～自尊環境を持てる子ども～」「環境を大切にできる子ども～人的・物的・空間的環境を大切にできる子ども～」がある。一人ひとりの個性を受容、尊重する環境は保育室の空間の中に工夫されていた。集団に慣れない子、自分の場所を求める子などそれぞれに対してふさわしい物的な環境として作られ、情緒の安定を第一に生活リズム(食べる、遊ぶなど)が保障されている。また興味や関心に応じた選択できる遊び(ブロック、絵本、製作、ままごとなど)を基本とし、落ち着いた環境が整えられている。</p> <p>保育者の子ども一人ひとりを認める姿勢が子ども同士の相互関係を向上させている。</p> <p>保育者は、子どもの権利を十分に理解した応答を心がけ一人ひとりの思いを受け止めて日々、子どもたちと過ごしている。クラスとしての活動の枠を越え、年齢の異なるクラスにも自由(~13:00)に行くことができ、一緒に遊ぶ姿やお世話をする姿、離乳食をお手伝いする姿が当たり前環境として展開されている。子ども同士の豊かな関わりは保育の方法「たてわりでない異年齢保育」「かかわりから生きる力を育てる保育」という思いの中にあり、そんな保育者の日々の姿勢が子ども達の能動的な交流への架け橋となっている。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(0000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		<input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

家庭からの様子を日々確認し、保育園生活へのスムーズな流れを大切にしている。  
 家庭からの様子の確認は口頭でのコミュニケーションを大切にし、その他連絡ノートやクラスにあるホワイトボードへ記入を行い把握している。子どもの様子を伝えてもらうこと、早朝やバス送迎のために直接保護者に会うことが出来ない場合は、職員ノートやバスノートに記載し、確認をすること、また朝食が済んでいない子どもに対して食事場所を提供したり、無理なく保育活動に入れるように子ども一人ひとりの状態に応じた対応が心がけられている。また子どものことだけに限らず保護者との何気ない会話を通じて普段からコミュニケーションが図られている。

一人ひとりに応じた生活環境を整えることで家庭と保育園が連動した仕組みが見られる。  
 一人ひとりの休息、昼寝などは徹底して子どもからの発信を基に対応されている。0歳児はくつろげるようベビーベット、1歳児以降はコットが一人ひとりに準備され必要に応じて睡眠を取ることができ、2歳児までは全員睡眠チェック表で睡眠の長さやリズムを確認している。幼児クラスは自分で自分の体の状態を知り、休息の必要性に気付くような配慮の下で、保護者の希望に応じて午睡した時間を午睡時間チェック表で個別に記載している。保護者の希望がない場合でも子どもの状態に応じて適切に休息、午睡の場が作られるなど柔軟に対応が行なわれている。

保育園は子どもたちの育ちを保護者と共有するためのコミュニティー化を図っている。  
 保護者に子どもの状況を伝える方法として口頭での説明、怪我などの際にも口頭又は電話での直接的な連絡を行っている。個別の連絡ノートのやり取りや保育日誌を個別的に記入し玄関先に掲示することなどが行われているが、保育園の地域性(延長時間が20時までとなること、送迎バスが広域になるため一人ひとりに対して時間が取れないこと)を理解しながらも積極的に個人面談、保育参観、誕生会には保護者に参加してもらい給食試食などの取り組みを行い、子どもの理解を家庭と保育園とが相互的に理解し支えていく姿勢が見られる。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

保育目標が浸透した遊びの環境があり、日々の生活に計画的に  
 保育目標には6つの目指す子ども像(「人権を大切にされる子ども」「個性を受容され、自分らしく生きる子ども」「やりたいことをやれる子ども」「自立した、自由と規律のある子ども」「環境を大切にできる子ども」「人の喜びを喜べる子ども」)があり、その目標を達成するために、生活と遊びの中に保育者の関わりや環境としての物的なしなかけとして存在している。特に自由に遊び、遊び込むことができるゾーンは製作・粘土・ブロック・ままごと・科学などで構成されていて、それぞれの遊びの充実と展開が空間として工夫されている。

主体者としての子どもは、相応しい居場所を自ら選び、過ごすことが保障されている。  
 生活と遊びが豊かに展開されるためには保育者が決めるのではなく、様々な環境を整えて子ども自身が選択することが大切だと考えている。子どもの特性を理解し、見通しながら子どもの様々な思いを満たす多機能的な環境が必要となることから、自由に選べる遊びのゾーン、動的な遊びをする運動ゾーン(広い保育室と自由に出せる大型ソフトブロック)、食事を行なう食事のゾーンなどがバランスよく配置され、子どもが主体者として生活できる舞台として準備される。活動の切り替えの際も無理強いはせず、待つこと・見守ることが大切にされている。

日常の保育の中に、様々な興味・関心の幅を広げる取り組みを行なっている。  
 月に2回ずつ英語と音楽の活動があり、これらも遊びの一環と考えられ、無理なく子ども達の思いを尊重して取り入れられている。また園外保育では3つの行き先を子どもたちと一緒に決めて選択させるなどの活動(公園ピクニック)を取り入れたり、花見や虫取り、海水浴など季節の移り変わりや変化を感じれるようなワクワクする視点を入れている。また園庭にはビオトープや水蒸気を噴射するドライミストなどがあり、季節に応じた子ども達の気付きや配慮の工夫が行なわれている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

様々な行事を通して保護者理解や保育方法の発信を行い、日々の保育に活かされている。  
年間を通じて計画されている行事には地域の方や卒園児を招待するフェスティバルのような意味合いを持つものと運動会、発表会、成長展など普段の保育の延長線上にあるものがある。後者ではその取り組みやそこに至るまでの過程が大切にされている。特に運動会では日常の遊びの中で見られた「跳ぶ」という1つの行為を必要な発達と捉え、園庭での跳ぶ場所の確保や運動ゾーンでの大型ブロックを子どもたちで作って跳ぶ場を作る遊びなどが行なわれ、それがそのまま運動会競技として取り入れられるなど行事は保育の方法を伝える場として捉えられている。

「みんな」という社会性を大切にしながら行事を通じて関係性の構築を図っている。  
基本的な年齢別によるクラス形態はあるものの、行事においても年齢別形態のこだわりや保育者による内容の一方的な決めつけがなく、行事の中の出し物の内容を子どもたちとの話の中で決めてから自由な選択によるグループを構成したりしながら取り組まれている。保育者は子ども同士の意見や話し合いを尊重しみんなが協力し成し遂げられるよう支援的アドバイザーとして見守っている。0歳児の出し物を見て興味を持った1歳児でもそのグループに温かく受け入れられ発表会にそのまま繋げるなど自由で柔軟な対応が豊かな関わりへと繋がっている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

一人ひとりがくつろげる環境を保障され、チームとして安心できる保育が行われている。

早朝や延長の保育時間は合同での保育が行われ、子ども同士の異年齢的な関わりが大切にされている。各保育室にはクッション・やわらかい肌触りのものが置かれたり、2、3人が入ると一杯となるような狭い空間、階段下の絵本スペースは朝食を囲む場として長い保育時間の中の特別な空間として子どもたちは楽しく利用している。またクラス形態に関係なく子どもたちが遊びにいきいたい、お世話したいなどの要望があれば自由に行くことができ、保育園全体として子どもを見るという人としての温かい雰囲気や安心してくつろげるという安心感を与えている。

発達や活動に応じた環境が子どもに落ち着き与え、年齢に関係なく保障されている。

1歳児、2歳児の保育室はロフトなどを利用して空間的な安心感を与えていたり、興味・関心に応じた遊具や物が豊かに整えられている。すべての保育室が遊ぶ場所「遊」、食べる場所「食」、寝る場所「寝」として目的に応じた生活環境があり、活動の切り替えの際も(遊びから食事、食事から遊びなど)焦ることなく、急がされることなく子ども一人ひとりのペースが保障されている。また自由に遊べる1つのゾーンの中でも多数の選択肢が豊かに準備され興味や関心があるもの同士が年齢に関係なく、教えたり・教えられたりする様子が見られる。

必要な情報を保育者同士で把握し、保護者との連携のツールとして活用されている。

日々の伝達などは職員ノート、バスノートなどで記入・把握され、保護者へ直接口頭で伝えるように取り組んでいる。閉園後の確認は「るんびにライン」というラインを通じて職員同士の共有化が図られている。保護者と直接会えない場合でもメモを渡すなど工夫を行ったり、緊急性の高い事案に関しては直接家庭へ電話を入れて対応している。また活動内容(どんな遊びを、誰と、どんな育ちが見れたかなど)は保育日誌(3歳以上)に記入され、お迎えの際に目を通すことができるように玄関先に掲示され把握することができるようになっている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目6の講評

食を通じて、一人ひとりの生活リズムや思いに応じた応答的環境が大切にされている。

どのクラスにもランチルームがあり、0、1歳児は隣接して調理室があることからおいなどを感じることができる。2歳児はリフトが室内にあり、ゆとりを持ち準備ができる。幼児クラスではセミバイキング方式でお当番の子どもや保育者がコミュニケーションを取りながら一人ひとりに応じてよそっている。そこでの遊びから食事への切り替えは一斉的な流れではなく、一人ひとりの食べたいという始まりを尊重した形で進められている。食べる環境も少人数で食べたい子が利用できる机や「みんな」を意識できるような広い場所での食事環境が整えられている。

個別のニーズに対してきめ細かく対応し、安心できる食事の提供が行なわれている。

アレルギーがある子どもに対してはアレルギー指示書に沿ってメニューが構成され、提供ミスが起こらないよう様々な工夫が行なわれている。食器やトレイの色を変えて視覚的に確認することや月に一度、配布する献立表にマーカーで対象の食材に色をつけ配膳前に確認すること、名前カードと写真を乗せておくなど提供において確認ミスがないように取り組まれている。また食事のこだわり(無添加や無農薬自然食など)や体調に応じた下痢対応食なども保護者の要望に応じて柔軟に受け入れられ、一人ひとりの家庭環境、健康状態に応じた対応が行なわれている。

食に関する様々な取り組みは子どもたちの興味・関心を高めながら協同性を育てている。

家庭にはお手伝いすることや食べたいものをリクエストできる相互応答的な環境がある。保育園においてもお当番マイスターという役割カードを作り達成するたびにシールを貼ってもらい、すべてのシールを集めると給食の献立の際に好きなものを栄養士にリクエストできるという流れになっている。また自分達が育てた野菜などを使い年長は月に1回、年中は2ヶ月に1回の頻度でクッキングの機会を持っている。そのような栽培、育成、収穫、皮むき、カット、調理するという一連の流れを経験できるように保育の中の一部として捉えられている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目7の講評

様々な機会を通して、子どもをけがや病気から守る取り組みを園は意識的に実践している

0歳児から本園に入園していると、普段の活動を通して子どもは自然と危険を回避する力を身に付けていくことを園は把握している。朝の集まりの際、散歩時あるいは退避訓練そして実際けががあった時、どのようにしてけがをしたか、どうするとけがをするのか、園は子どもたちに伝えている。体幹を培う必要がある子どもが園で見受けられる場合には身体運動を通してバランス感覚を身に付けられるような保育活動での工夫も見られる。食事の前にはうがいや手洗いの方法を看護師が子ども達に伝え、病気の予防に役立つことを子どもたちに意識させる取り組みもある。

地域の特性を活かした医療機関との連携によってケアを必要とする子どもを支援している

喘息等により医療的ケアを実際必要とする子がいる場合、保護者呼んで病院で待ち合わせをし、園は保護者と共に子どもの治療に立ち会うようにしている。嘱託医、小児科医等の関係医療各機関には予め「与薬指示書」を配布して対応してもらい配慮がある。地域の特性を活かした医療機関との連携がある。また、保護者には「意見書」や「登園届」を手渡し、医療機関の承諾をもらうように促している。「おくすり依頼書」があって、保護者のサインを求めると同時に、くすりの説明書の写しを園に提出してもらい、適切な与薬に対応できるよう園は配慮している。

各感染症に関する情報提供を積極的に行うと同時に、SIDS啓発予防に園は努めている

「入園のしおり」に感染症の登園基準が明示されている。毎月の園だよりの中の「ほけんだより あのね」には感染症に関する基礎知識の他、前月の感染症情報を掲載して、感染症の流行状況を保護者に知らせている。また、保護者からの感染症に関する問い合わせに配慮し、感染症発症時玄関に発生した感染症と流行状況を掲示する。さらに、乳幼児突然死症候群(SIDS)対策としては「睡眠チェック表」を用いて予防に努めている。ポスター掲示や入園時の説明の際、保護者にSIDS予防に対する園の取り組みを伝えると共に保護者にも注意喚起を促している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

家庭の状況に応じて公的支援を受けられるよう配慮するなど園は保護者支援に努めている

入園時の面談では「家庭状況調査票」「健康診断アンケート」に基づいて、各家庭の状況について聞き取り調査を行っている。状況に応じて柔軟に対応する姿勢が園にはある。生活状況の厳しさから育児困難であると園が判断した家庭については、園が仲介し、市役所と相談して、生活改善を図り、子どもの最善の利益が保障されるよう公的支援の積極的活用を保護者に働きかけている。また、「職員ノート」があって、子どもの休み等様々な事柄が記入されるが、保護者からの意見や要望がある場合は、それら要望等に対して園は丁寧に対応するよう取り組んでいる。

担任との面談、一泊保育等の行事参加によって保護者と職員間の信頼関係が深まっている

保護者の保育参観や保育士体験の会を園は催している。保育士体験への参加は少ないが、その他の行事、餅つきやクッキング、お花見には保護者が来て手伝いをしてくれる。誕生会の時には誕生児の家族を招待して一緒に給食を頂く取り組みがある。学校心理士の面談と同時に担任との面談があり、子どもの気になるところがある保護者はその面談会に積極的に参加している。このような保護者参加の行事を通して、職員と保護者間の信頼関係が深められている。一泊保育(年長児)の時には家族も参加するので、家族の話をじっくりと聞ける絶好の機会となっている。

意見箱やアンケート等により保護者の意見や要望を受け止め対応する仕組みが整っている

意見箱を玄関奥の絵本コーナーに設置している。入園時に無記名でも投書できる「苦情用紙」を予め保護者に配布し、保護者の考えや意見、要望を聞く積極的な姿勢を園は整えている。プールや一泊保育に参加するかどうかのアンケートを園はとり、保護者の意向を確認している。プールは皮膚疾患やアタマジラミ等、一泊保育については食べものの事や外泊した経験等を尋ねるアンケートになっている。さらに「個人面談記録」では保護者による子どもの育児について心配な事項を記入してもらい、保護者と職員が子どもの情報を適切に共有するよう取り組んでいる。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目9の講評

就労の有無に関係なく利用可能な一時保育や園庭開放によって在宅子育てを支援している

地域の在宅子育て家庭のニーズに沿って園は様々な事業に取り組んでいる。まず、一時保育事業がある。利用については、一時保育の申込書に記入してもらい、週3回午前8時から午後5時まで子どもを預けられる。午後6時までのこともある。保護者の事情に応じている。就労の有無に関係なく、リラックスするため、子育てに疲れたから等々の理由で一時保育を利用するケースもある。他地域の精神科医による電話相談情報を園は在宅子育て家庭に提供している。園庭開放は、空いていれば、いつでも利用可能である。未就園児よりは小学生の利用が多いのが特徴。

在宅子育て家庭の集まりのため本園の一室を貸すなど家庭同士の交流支援に積極的である

地域の在宅子育て家庭がサークル活動を行う場合、本園の部屋の一室を貸して、在宅の保護者達が交流の場を確保できるよう園は配慮している。七夕まつりや人形劇に参加し、その参加した保護者同士の交流があることを園は把握している。このことは園が全く知らない保護者が行事に参加していることから、保護者同士情報を交換し合う交流の機会を持っていることがわかる。七夕まつりは地域全体に案内を出す。七夕や運動会のポスター掲示を公民館や小学校、郵便局に依頼し、掲示してもらっている。園の行事等を通して在宅子育て家庭同士の交流を促している。

行事後の反省会や年度当初の会議を通じて子育て支援事業の評価と見直しを実施している

評価や見直しについては、行事が終わった後地域の子どもたちを対象にしたチケット等の製作枚数を何枚にしたらいかが等定例職員会議で反省し、次回に繋げる園の取り組みを通して確認できた。受け皿はあるが、一時保育や七夕会以外の参加が極端に少ないのが現状であり、今後は園から外へ出て地域在宅子育て家庭のための支援イベント実施の必要性を園は認識している。年度当初の職員会議やケース会議で支援を評価見直し際には、この地域の支援事業の拡充が園として今後の課題と真摯に受け止めていることがわかった。特に要保護児の支援活動が期待される。